

白田町誌 考古 古代・中世編 目次

口 紋

発刊のことば

発刊にあたつて

例 言

白田町誌刊行会長 三浦大助

白田町誌編纂委員長 尾崎行也

考 古

第一章 旧石器時代の白田地域

第一節 旧石器人のくらしと文化	五
一 旧石器時代のあらまし	五
(一) 時代の名称	五
(二) 人類の進化	五
(三) 日本列島の旧石器文化	七
二 旧石器時代の自然環境	八

(一) 火山活動と旧石器時代	八
(二) 旧石器時代は氷河時代	九
(三) 白田地域の自然環境	一〇

第二節 石の道具とその変遷	一
(一) 石器の製作	一
(二) 石器群の変遷	四

第二節 白田地域の最古の人々	一
一 千曲川上流地域の旧石器文化	一七
二 白田地域の旧石器時代遺跡	一九
三 旧石器人のくらしの復元	一九

(一) ブロック・ユニット	一九
(二) 住居跡	一九

(三) 食生活………	一二
(四) 狩の道具………	一三
コラム 年代測定法………	一四
(一) 繩文時代前期………	四八
(二) 植物纖維を混ぜた土器とオセンベイ土器………	四八
(二) 石器石材からみる定住化への動き………	五一
(三) イノシシの表された土器………	五二
五 繩文時代中期………	五三
(一) 中期土器の移り変わりと千曲川流域独自の土器………	五三
(二) 白田地域の中期遺跡発掘調査事例から………	六三
(三) 打製石斧を使う時代………	六九
(四) 繩文時代の精神世界………	七二
(五) 佐久に多い敷石住居………	七四
(六) 低地への進出と千曲川のサケ………	七五
六 繩文時代後期………	七七
(一) 豊富な遺物（月夜平遺跡など）………	七七
(二) 月夜平遺跡の発掘調査………	八〇
(三) 後期の繩文集落………	八五
(四) 佐久の繩文後期についての予察………	八五
七 繩文時代晚期………	八六
(一) 減少する遺跡………	八六
(二) 弥生の足音………	八八
第三節 白田地域繩文時代研究の現状………	八九
コラム 繩文人と弥生人………	九一
(一) 早期のくらし………	四六
(二) 有形尖頭器の分布………	四三
(三) 洞窟・岩陰での暮らし………	四三
(四) 草創期のくらし………	四六
三 繩文時代早期………	四六
(一) 早期のくらし………	四六
(二) 繩文時代の白田地域………	一七
二 繩文時代のイメージ………	一七
(一) 時期区分………	一〇
(二) 繩文時代の遺物………	一〇
(三) 繩文時代の遺構………	一五
(四) 信州の森の文化………	二七
コラム 肌で感じる繩文時代………	二八
第二節 白田地域の繩文時代………	二九
一 自然地形との関連………	二九
二 繩文時代草創期………	四〇
(一) 井上遺跡の神子柴型石斧………	四〇
(二) 有形尖頭器の分布………	四三
(三) 洞窟・岩陰での暮らし………	四三
(四) 草創期のくらし………	四六
四 狩猟の道具………	一四
四 繩文時代前中期………	一四

第三章 弥生時代の臼田地域

第一節 弥生時代の生活と文化	九五
一 弥生文化の成立	九五
二 弥生時代の年代	九五
(一) 稲作の起源と伝播	九六
(二) 稲作の広がり	九七
二 生活・生産用具の発達と技術	九七
(一) 多彩な農工具	九七
(二) 金属器の使用	九九
(三) 弥生時代の食料	一〇一
(四) 衣服	一〇二
(五) 装身具	一〇二
(六) 繩文土器から弥生土器へ	一〇三
(七) 佐久地方の弥生土器	一〇四
三 住まいとムラ	一〇七
(一) 新しい建築様式	一〇七
コラム 弥生時代の建物	一〇九
(二) 弥生時代の水田	一一〇
(三) 戰いに備えた村	一一一
四 人々の墓	一二二
第二節 佐久地方の弥生文化	一二三
一 波及期の遺跡	一二四

二 発展・最盛期の遺跡	一五
第三節 白田地域の弥生時代遺跡	一六
一 遺跡の分布	一六
二 千曲川右岸の遺跡	一六
(一) 月夜平遺跡	一六
(二) 唐松B遺跡	一七
(三) 井上遺跡	一七
四 田中遺跡	一八
(五) 離山遺跡	一八
(六) 芦内岩陰遺跡	一八
三 千曲川左岸の遺跡	一九
(一) 勝間原遺跡	一九
(二) 丸山遺跡	一九
コラム 弥生人の顔	二〇

第四章 古墳時代の臼田地域

第一節 古墳時代のあらまし	二三
---------------	----

一 古墳時代の開始	二三
二 古墳の出現と変遷	二三
三 古墳の形態と構造	二三
四 古墳時代の各時期の概要	二四
一 前期	二四

コラム 古墳の形態と石室の構造	一一五
古墳築造の終期について	一一五
(二) 中期	
(三) 後期	
第二節 古墳時代の人々の生活	一二七
一 住居・居館	一二九
二 人々の生活	一三〇
三 生活の道具や武器	一三一
第三節 白田地域の古墳と文化	一三二
一 白田地域の古墳の分布	一三三
二 白田地域の古墳の時期	一三三
三 各地域の主な古墳	一三三
(一) 千曲川右岸の古墳	一三一
1 幸神古墳群	一三一
2 五庵古墳	一三一
3 英田地畠古墳	一三一
4 新海三社神社境内所在の古墳群	一三一
5 入沢古墳群	一三一
6 三分一号古墳	一三一
(二) 千曲川左岸の古墳	一九四
1 蛇塚古墳	一九六
2 滝ノ沢古墳	一九六
3 境塚古墳	一九六
第四節 白田地域の古墳時代の遺跡と生活	一九六
一 白田地域の古墳時代の主な遺跡	一九六
(一) 井上遺跡	一九六
(二) 原遺跡	一九六
(三) 大奈良遺跡	一九六
第五章 奈良・平安時代の白田地域	四一四
第一節 庶民のくらしと住まい	一五
一 律令制下の様相	一五
二 庶民のくらし	一六
三 住まいの変化	一七
コラム 1 信濃国府	一七
第二節 生活の道具	一七
四 ムラの様相	一七
一 土師器と須恵器	一七
二 施釉陶器	一七
コラム 2 奈良・平安時代の土器形態の変遷	一七
三 その他の道具	一七
四 「物部楮丸」の銅印	一七
第三節 白田地域の奈良・平安時代遺跡	一七
一 遺跡の分布と広がり	一九
二 千曲川右岸の遺跡	一九
(一) 千曲川平坦面の遺跡	一九
(二) 谷川流域の遺跡	一九
(三) 雨川流域の遺跡	一九

(四) 吉沢川流域の遺跡	一五三
三 千曲川左岸の遺跡	一五四
(一) 千曲川平坦面の遺跡	一五四
(二) 大曲川・片貝川流域の遺跡	一五八
(三) 湯原川・滝川流域の遺跡	一五八
古 代	
第一章 大和王権と佐久	一
第一節 大和王権の地方支配	一六五
一 大和王権の成立	一六五
二 地方支配の構造	一六七
三 国造と部民	一六八
第二節 大和王権下における東信濃の位置	一七〇
一 大和王権の東国進出	一七〇
二 関東と東信濃	一七二
三 東海地方と信濃	一七二
第三節 佐久の政治勢力	一七四
一 佐久平の古墳群	一七四
二 佐久平の豪族たち	一七六
第 二 章 律令制と佐久	
第一節 律令国家の成立	一八九
一 大化の革新	一八九
二 天智朝から天武朝へ	一九〇
三 律令国家の成立と信濃	一九一
第二節 新しい地方支配のしくみ	一九五
一 律令国家の地方支配	一九五
二 信濃の郡司	一九六
第三節 地域としての佐久	一九八
一 佐久郡の歴史的環境	一九八
二 古代信濃の行政地名の変遷	一九九
三 佐久郡のなりたち	二〇〇
四 佐久郡の郷	二〇一
三 シナノの中のサク	二七七
第四節 「シナノ」と「サク」	二七八
一 「シナノ」の語源	二七八
二 「サク」の呼称	二八〇
第五節 神話の中の佐久	二八一
一 新海三社神社の文化遺産	二八一
二 新海三社神社の景観と郡内巡行	二八二
三 上野との関係	二八五

五 出土文字資料からみた佐久郡.....	三〇三	第四節 新海三社神社と佐久の神々.....	三四一
六 東山道と駿家.....	三〇六	一 新海三社神社境内図をよむ.....	三四一
第四節 白田地域の歴史的環境.....	三〇八	二 新海三社神社の如法塔.....	三四四
一 地域の歴史的特徴.....	三〇八	三 大宮諏訪神社の神像と神仏習合思想.....	三四七
二 銅印「物部楮丸」をめぐって.....	三一〇	四 その他の神々.....	三四八
三 田口地区における条里的遺構と			
「太田部」「三分」.....	三一二		

第三章 古代の神・仏と佐久

第一節 国分寺造営の頃の仏教.....	三一九
一 仏教の伝来と佐久.....	三一九
二 国分寺造営と佐久.....	三二二
三 村落と寺院.....	三二三
第二節 最澄の東国伝道.....	三二五
一 信濃と関東の道忠.....	三二五
二 最澄の東国伝道と佐久.....	三二七
三 関東諸寺院との関係.....	三二九
第三節 平安時代の仏教.....	三三三
一 定額寺の設置.....	三三三
二 『日本靈異記』の世界.....	三三五
三 大般若経をめぐつて.....	三三八

第四章 平安時代の佐久

第一節 律令国家の変質.....	三五三
一 律令国家の東国政策の変化.....	三五三
二 東国と西国の接点としての信濃.....	三五六
三 九世紀東国社会の変化と佐久.....	三五六
第二節 災害と佐久.....	三五七
一 人類の歴史と自然.....	三五七
二 仁和の洪水と佐久.....	三五八
三 浅間山の噴火.....	三五九
第三節 古代から中世へ.....	三六〇
一 再開発の進展と新興有力者の台頭.....	三六〇
二 律令国家から王朝国家へ.....	三六三
三 信濃の莊園と公領.....	三六五
四 信濃武士と佐久源氏の登場.....	三六七

中世

第一章 鎌倉幕府の成立と臼田地域

第一節 治承・寿永の内乱と佐久	三七五
一 源義仲の拳兵と信濃源氏	三七五
二 横田河原の戦いに参加した	
「キソ党」「サコ党」「武田党」	三七六
三 源頼朝との決別と義仲の滅亡	三七八
第二節 鎌倉時代初期の政治史	三七九
一 信濃莊園と鎌倉から京都への年貢の輸送	三七九
二 平賀朝雅の乱とそれをとりまく人々	三八一
第三節 承久の乱とその後の臼田地域	三八三
一 承久の乱と信濃武士	三八三
(一) 後鳥羽上皇の拳兵	三八三
(二) 承久の乱に参加した信濃武士	三八三
(三) 承久の乱後の信濃	三八五
二 承久の乱以後の平賀源氏の動向	三八六
(一) 平賀源氏と平賀郷	三八六
(二) 信濃平賀氏	三八七
(三) 安芸平賀氏	三八八

第二章 北条氏の佐久進出

第一節 大井氏と伴野氏の系譜	三九七
一 大井氏と伴野氏の発展	三九七
二 上野国守護安達氏と結んだ伴野氏	三九九
第二節 霜月騒動と北条氏の信濃支配	三九九
一 安達安盛の政治改革	三九九
二 霜月騒動と伴野氏のその後	四〇〇
(一) 霜月騒動と滅ぼされた伴野氏	四〇〇
(二) 伴野氏のその後、諏訪氏との関係	四〇一
(三) 佐久に残った小笠原氏	四〇四
三 伴野莊にはいった北条一門	四〇四
第二章 伴野莊、大井莊における生活・文化	
第一節 佐久平の莊園、公領	四〇九
一 平賀郷、大井莊、伴野莊の開発領主	四〇九
二 上野、甲斐との結接点としての平賀郷・伴野莊	四一〇
(四) 平賀氏と海東莊	三九一
(五) 越後平賀氏	三九三
(六) 平賀氏と越後・上野	
信濃・甲斐・出羽・安芸	三九四

(一) 平賀郷	四〇	第五節 白田氏の系譜	四三七
(二) 大井莊	四二	一 白田文書の伝来と白田氏の系譜	四三七
(三) 伴野莊	四四	二 白田文書をよむ	四三九
第二節 一遍と佐久		一 一遍上人の信濃來訪	
		二 一遍聖絵にみえる「小田切の里」とは	四一六
		三 「一遍聖絵」の「小田切の里」の段をよむ	四一七
第三節 伴野莊における大徳寺支配		一 大徳寺に寄進された伴野莊	
		(一) 伴野莊の寄進と年貢	四二二
		(二) 縱旨に登場する白田原	四二三
二 大徳寺による伴野支配と		京都にのぼつた白田の人々	
		(一) 伴野莊の年貢員数を注進す	四二四
		(二) 京都にのぼつた伴野莊の人々	四二六
三 伴野莊の在地勢力		五 深志介について	四六九
		六 足利尊氏の挙兵と大井城合戦	四六九
四 中先代の乱と伴野莊		七 鎌倉府と信濃	四七一
第四節 白田郷の開発と景観		第二節 東信地域の武士の動向	四七三
		一 鎌倉幕府滅亡後的小笠原氏の勢力伸長	四七三
		二 佐久地方の武士の動向	四七四
第五節 白田村の開発と伝承		第三節 南北朝内乱の広がり	四七六
		一 南朝勢力の拠点と神氏	四七六
		二 新たな勢力の伸張	四七八
二 江戸時代の村絵図		第四節 觀応の擾乱	四八〇
		一 尊氏・直義の対立	四八〇
		二 南朝方の優勢と桔梗ヶ原の合戦	四八三

三 鎌倉・南北朝時代の白田氏の動向	四八六	二 大井氏と芦田氏の境紛争	五一九
四 上杉氏と信濃守護職	四八九	三 永享の乱	五二三
第五節 守護小笠原氏と佐久地方	四九二	第四節 関東管領と鎌倉公方との対立	五四四
一 守護代大井氏と村上氏	四九二	一 享徳の乱	五一七
二 小笠原氏の信濃守護就任	四九四	二 古河公方と堀越公方	五二九
三 佐久地方への影響	四九五	第五節 守護職の崩壊と乱世へ	五三二
第五章 室町時代の情勢		一 守護職の崩壊	五三二
第一節 大塔合戦と国人領主	四九九	二 亂世へ	五三三
一 守護による領国支配と国人層	四九九		
二 国人領主層の反発と大塔合戦	五〇一		
三 大塔合戦の推移	五〇五		
四 信濃の幕府料国化と地域の一揆の動向	五〇九		
第二節 関東争乱の始まり	五一		
一 鎌倉府の混乱	五一		
二 上杉禪秀の乱	五一二		
三 信濃守護職の変質	五一五		
四 将軍足利義教の就任と鎌倉府との対立	五一五		
五 上杉憲実の管領就任と関東の情勢	五六		
六 京都扶持衆と関東扶持衆	五六		
第三節 小笠原氏と村上氏との争い	五五八		
一 将軍権力の変質と守護家への影響	五五八		
第三節 佐久の戦乱と武田氏	五五九		
一 大井氏と芦田氏の境紛争	五一九		
二 古河公方と堀越公方	五二九		
三 永享の乱	五二三		
四 結城合戦	五四四		
五 信濃守護小笠原氏の分裂と国内の動搖	五四四		
六 関東管領と鎌倉公方との対立	五四四		
七 享徳の乱	五一七		
八 古河公方と堀越公方	五二九		
九 守護職の崩壊と乱世へ	五三二		
一 亂世へ	五三三		
二 伴野氏と佐久地方	五四二		
三 高野山蓮華定院	五四三		
四 高野山蓮華定院	五四三		
第二節 佐久地方を取り巻く戦国時代の情勢	五四三		
一 室町幕府内部の戦国争乱の始まりと信濃守護家	四五五		
二 越後・関東の情勢と佐久	五四九		
三 高梨氏と村上氏	五五〇		
第三節 佐久の戦乱と武田氏	五五九		

一 武田氏の佐久侵攻	五五一	九 医王寺城	五七七
二 小笠原氏の敗走、守護小笠原の流転と信濃武士	五五四	十 湯原城	
三 武田氏の進出と諫訪	五五五		
第四節 上杉氏の影響	五五八	白田町遺跡地名表	
一 戸石崩れと佐久の情勢	五五八	引用・参考文献	
二 上杉氏の信濃進出	五六〇		
三 川中島の合戦	五六一	白田町誌刊行会委員名簿	
第五節 武田氏滅亡と佐久地方	五六四	白田町誌 考古・古代・中世編編纂委員・執筆者 写真、史料等協力者	
一 新海明神の願文と信玄の上野進出	五六四	白田町誌編纂事務局	
二 武田氏の滅亡と長篠合戦	五六七	あとがき	
第六節 戦乱の終焉へ	五六九	考古編編纂委員	
一 織田信長の滅亡と信濃の情勢	五六九	川上 元	
二 依田信蕃の佐久郡統一	五六〇	古代・中世編編纂委員	
三 戦乱の終焉	五七一	福嶋正樹	
第七節 佐久郡の城館	五七二	付図 遺跡分布図	
一 大井城	五七二		
二 内山城	五七二		
三 平賀城	五七二		
四 前山城	五七四		
五 岩尾城・長土呂の館	五七四		
六 鶩林城・金井城	五七五		
七 志賀城	五七五		
八 稲荷山城	五七六		